

近畿農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回）選定地区

ビジネス・イノベーション部門					
No.	府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要
1	京都府	南山城村	株式会社南山城	 道の駅加工場で自社製造のお茶スイーツ	株式会社南山城は、道の駅整備計画をきっかけに一次産業を支える地域商社として設立。道の駅お茶の京都みなみやましろ村を第3セクターで運営。日本茶高級ブランド宇治茶の産地として、日本茶をはじめとしたお茶の加工品をブランド化し製造・販売。新たな雇用を生み出し、南山城村に年間58万人の来訪者を呼び込む。 道の駅はむらづくりの拠点となり、生産意欲の向上に伴う売上の拡大により、南山城村に株主配当を行うとともに指定管理費ゼロを実現している。
2	大阪府	豊能町	株式会社里山創生研究所	 ワイナリー事業とよの高山ワイナリー	株式会社里山創生研究所は、棚田の再生や捕獲した有害鳥獣の利活用といった地域課題の解決にあたり、農家宿レストラン経営を軸として、ジビエの食肉処理加工やワイナリー事業を展開。 事業に取り組むにあたり、地域住民や都市住民等の様々な参加者も巻き込み、地域活性化に貢献。 これらの取り組みが、都市住民にとっては食育の機会や魅力のある体験となり、都市農村交流の拡大につながるなど、取組の持続性が確保されている。
3	兵庫県	多可町	株式会社多可町地域商社RAKU	 産学官連携で古民家を利活用した物件（カフェと宿泊スペース）	株式会社多可町地域商社 RAKU は、「地域に賑わいを創る」を理念に多可町の100%出資法人として設立。 生産者と密着しながら、ふるさと納税や特産品の開発・販路の拡大を行い、地域内外で販売金額を増加。 また、「働く」「住む」を簡易に体験できるプランやオーダーメイド型ツアーを開発し、外部人材の受入や雇用定住を実現するとともに、多可町ファンクラブの構築や都市圏でのイベントによる情報発信などにより、関係定住人口のさらなる獲得に取り組んでいる。
4	奈良県	曽爾村	一般社団法人 曽爾村農林業公社	 規格外トマトを使ったトマトソースを開発	一般社団法人 曽爾村農林業公社は、基幹産業の農林業の衰退により人口減少が急速に進む中、農林業を魅力化し後継者を育てることを目的に官民連携組織として平成28年に設立。 これまで、農産物のブランド化、新規就農者の販路サポート、農地の維持管理の仕組みの構築、地域資源を生かした商品開発等の様々な取組を進めた結果、多様な農業を志す移住者の増加や、既存住民の転出抑制などの効果が発現されている。
5	和歌山県	北山村	株式会社じゃばらいず北山	 じゃばら商品ラインナップ	北山村は「全国唯一の飛び地の村」であり、村の97%を山林が占める自然豊かな人口400人程度の小さな村である。 古来より北山村でのみ自生していた柑橘系果実「じゃばら」が、花粉症に効果があるかもしれないと多くのマスコミに取り上げられたことで飛躍的に人気が高まった。 株式会社じゃばらいず北山は、令和元年に北山村直営事業を継承し村100%出資で創業。民間ならではの強みを生かし、大手製菓会社への原料供給や海外への輸出など、事業の拡大により雇用が増加。栽培・加工・輸出までを村民一体で取組み、観光誘致など更なる地域活性化に向けた展開を進めている。
コミュニティ・地産地消部門					
No.	府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要
6	滋賀県	栗東市	明日の走井を考える会	 シンボルとなった早乙女衣装	深刻な過疎化で集落の存続が危機を迎える中、のちに役員となる4名が検討を開始。自治会のサブ組織として「明日の走井を考える会」を立ち上げ、集落に人を呼び込むことで活性化していこうと活動を開始。 紫陽花を植樹した「アジサイロード」を整備し、明るく彩られた景観を集落内外の人々に提供。 自分達だけではできないことを大学や企業などの構成員の努力やボランティアの協力を得ながら、荒廃した棚田を再生するとともに、田植え、稲刈りなどの農業体験や収穫祭、伝統行事体験など地域資源を活かした様々なイベントを開催することで交流人口を増加させ、集落の活性化を実現している。
7	兵庫県	市川町	NPO 法人 棚田 LOVERS	 400年前から続く活動拠点の棚田	NPO 法人棚田 LOVERS は、後継者不足等により「あと5年で集落内の棚田はなくなる」との地域の危機感に共感し活動を開始。 米作りや自然観察等の体験活動により、参加する子どもたちは自然の中で多くのことを学びながら、逞しく成長している。 棚田フェスや若者交流会等の活動を継続し、参加者や活動連携団体は毎年増加。14名の若者が移住。 棚田の保全と棚田を守る将来世代の育成に向け、信念と覚悟を持って活動を継続している。
個人部門					
No.	府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要
8	京都府	亀岡市	中川 元宏	 従来とは異なり、雑草を春まで放置して長く伸ばし浅く鋤倒して乾燥させる	中川元宏氏は、亀岡市において令和2年にJAS認証を取得し、無農薬無化学肥料の自然栽培方法を独自で開発・実践。 また、亀岡市と連携して亀岡オーガニック農業スクールで実習指導行うなど、社会貢献活動に努めている。